

第2回ジャパンレースディレクターズミーティング2020 議事録

- ・日時：2020年12月1日（火）14：00～15：00
- ・出席者：参加者（100名）、日本陸連（7名）

1. あいさつ：尾縣貢（日本陸上競技連盟 専務理事）

- ・7月に競技を再開して以来、全国で800もの競技会が開催され、感染者は1人とどまった。
- ・関係者の皆様には改めて御礼申し上げるとともに引き続きのご理解、ご協力をお願いしたい。
- ・これからは福岡国際、防府、そして高校駅伝など本格的にロードレース競技会が開催されていく。
- ・開催については、沿道対策などTrack&Field以上に大変なものがあると思う。
- ・そのような中において、去る11月12日に本連盟は理事会を開催し、道路競走競技に関する以下2点が承認された。
 1. 靴底の厚さ測定の対象選手について
 2. ネットタイムの活用方法について
- ・ネットタイムの活用については、コロナ禍において安全安心な大会を実施していく上で非常に重要な役割を担うものであると考えている。
- ・本日の内容は各陸協・大会に持ち帰って頂き是非活用して頂きたい。
- ・難しさは理解しているが、是非ロードレースの再開について進めて頂きたい。

2. 第1部：2020年7月以降の競技会開催実態調査まとめ

- ・調査対象競技会：2020年7月1日～10月4日までの競技会
- ・開催競技会数：854大会
- ・上記のうち無観客対応の競技会数：557大会
- ・競技会参加競技者数（延べ人数）：621,718名
- ・競技会参加大会役員・審判等数（延べ人数）：110,355名
- ・競技会終了後2週間以内の新型コロナウイルス感染者の報告の有無：1件（1名）
- ・大会実施にあたって、効果があったと思われる対応（共通している対応）としては、3密の回避（密閉、密集、密接）/マスクの着用/除菌対策の徹底（アルコール除菌・手洗い・手指消毒）/大会に関わる人の体調チェックと検温であった。
- ・この4つに関してはどの大会も実施頂いている。多少の違いはあるものの、各大会基本的な感染対策をしっかりと実施頂いているという印象である。
- ・今後ロードについても実態調査をさせて頂ければと思う。

日本陸上競技選手権大会・長距離種目の開催にあたって

■観客の受入れ

ヤンマースタジアム長居（収容人数 47,000 人）

→観客 約 2,000～2,500 人を動員予定

■対策

・基本的な感染対策を実施。

（マスク着用、3密の回避、手洗い・手指消毒の推奨、ソーシャルディスタンスの確保）

・大会 1 週間前からの体調チェックと報告

・当日全ての方の検温

・来場者（観客）の連絡先の登録

・来場者（観客）の座席の登録（座った席と座っていた時間）

→感染が発覚した場合、それ以上感染が拡大しないように追いかけるような仕組みとしている。

・大会に関わる全ての人に注意を頂きたいということで、大会 HP、SNS を使った呼びかけを積極的に実施。

3. 【第 2 部】競技規則の変更について

①道路競走における競技規則第 143 条（TR5）（靴底の厚さの測定）の適用

日本陸上競技連盟 事業部事業課長 吉澤永一

第 143 条 5, 13 の適用対象競技者について

・本連盟の登録会員かつ以下の参加資格記録を有する競技者は、靴底の厚さの測定をレース前に測定して参加する。またレース前に対象になっていなくてもレースにおいてこの記録を達成した競技者はレース後に靴底の厚さを確認する。

男子 ハーフマラソン：1:04:00

マラソン： 2:21:00

女子 ハーフマラソン：1:18:00

マラソン： 2:56:00

（日本ランキング 200 位相当）

駅伝競走における取り扱い

・駅伝競走は公認申請していただいている公認競技会ではあるが、記録については一部の競走を除いて公認されない。そのため規則第 143 条 5, 13 については非適用とし、靴底の計測は行わなくて良いこととする。

※適用競技会＝ロードリレー（42.195km の公認マラソンコースを用いて、5km, 10km, 5km, 10km, 5km, 7km195 の区間で行うもの。世界記録公認の対象）

②ロードレースにおけるネットタイムの取り扱いについて

日本陸上競技連盟 事業部 RunLink 課 畔蒜洋平

- ・大会主催者がネットタイムを参加標準記録の資格記録として扱ったり、エリートカテゴリーの競技者を除くランナーの順位付け等に活用したりしても良い。
- ・WAの公認記録はあくまでグロスタイムであることに変わりはない。
- ・大会主催者の判断でネットタイムをうまく活用して頂きたいというのが今回の変更の趣旨である。
- ・エリートカテゴリーの競技者を除くと記載があるように、一般ランナーの方を対象としており、主催者の裁量でネットタイムの使用を決めて構わないということになる。
- ・併せて「競技会の参加標準記録として使用できるのは、グロスタイムだけである。」という記載が削除となる。
- ・ウェーブスタート（時差スタート）を実施する場合は、ウェーブごとにグロスタイムとネットタイムを計測することとする。つまり、ウェーブスタートを実施した場合は、ウェーブごとのグロスタイムが公認記録となる。
- ・ネットタイムを計測した競技会においては、記録の申請は電子申請を行い出場した全てのランナーのグロスタイム、ネットタイムを提出頂く。
- ・ルール改正の背景として、コロナ禍で、陸連としてもウェーブスタートを推奨させて頂いた。その中で大会主催者の皆様から、ネットタイムを使用できるようにしてほしいというご意見も多数頂き改正に至った。
- ・市民ランナーの皆様からもご意見が多数あったが、世界6大レースにおいては、エリートについてはグロスで計測しているものの、一般の部においてはネットで順位付けを行っている背景もあり、グローバルスタンダードに合わせる形で、今回ルールを変更させて頂いた。
- ・実際に大会の話を見ると、新聞社さんが関わる大会だと翌日100位までのリストを新聞に掲載するというを実施しているが、このときの掲載方法をグロスとするのかネットでするのかという議論もあると聞いている。どちらのタイムで掲載するかは大会ごとの判断でお願いできればと思う。
- ・標準記録を設けている大会においては、ネットタイムを受け入れるかどうかということについてもご判断を頂ければと思う。
- ・海外の陸連にも確認を取ったが、ルール上本件について定めておらず、基本的には各大会の判断を尊重するという事で各国も対応している。
- ・WAもネットタイムを公式タイムに認めるような動きはあるかという質問を頂いているが、現状変更の予定はなく、あくまで大会によってこの点を柔軟に対応頂けるようになるというのが今回のルール改正の趣旨となる。

4. 質疑応答

Q：靴底の事前測定をせず、既定のタイムで完走した人のみレース後に計測するのは問題ないか。

A：問題ない。レース後に対象選手を招集所など、どこかに集めた上で計測頂ければと思う。

Q：計測器具については、各都道府県陸協にて所有しているという理解で問題ないか。

A：スタジアムにおける競技会において既にシューズの計測は実施しているため、地域陸協にお伺い頂ければと思う。主催者さん独自に手配頂くとするよりは、普段大会を主管している陸協の方にご相談頂きたい。既に陸協には陸連から情報を共有している。大会開催が近づいてきたタイミングでご相談頂ければと思う。

Q：当日、資格記録を突破してゴールしても、登録会員以外であれば、レース後に計測しなくていいという認識で大丈夫か？

A：陸連登録していない選手については計測しなくて問題ない。

Q：測定対象外の人（規定内の記録を有していない陸連登録者）が、既定外シューズを履いて走っていたことが何らかの形で後日判明した場合、大会に出場した全選手の記録が非公認となる可能性はあるか？

A：測定対象外の方が、規定外シューズを履くことは可能。大会に出場された全選手の記録が非公認となることはない。

Q：参加資格を有するもので、当日の記録が遅かったもしくはリタイアした場合は、シューズの計測をしなくてよいという認識でよいか。

A：レース後に測定するという運用であれば、その認識で問題ない。レース前に計測をしている場合は記録を有している時点で計測が必要となる。

Q：ウェーブスタート方式を採用した場合、全てのランナーの記録がネットタイムとなると思うが、公認大会として記録が認められるのか。

A：ウェーブスタート（時差スタート）を実施する場合は、ウェーブごとの号砲に合わせて計測した記録がグロスタイム（＝公認記録）になる。順位の付け方は、大会ごとにご判断頂ければと思う。

Q：一般とエリートの区別はどうしたら良いのか。

A：シューズの測定については、陸連登録者であるか、登録者でないかというところで線引ができる。測定の必要があるのは陸連登録者のみで、その中で基準を上回った選手のみ計測頂きたい。

ネットタイムについては、ルールブックにもエリートカテゴリーという表記は書かれているが、明確な線引がされていない。大会によってエリートとして募集をかけているところで区別するか、そのように募集をかけていない場合は、あくまで例であるが第一ブロックで区別する、というように大会ごとに定義付けをしていただくことになる。

Q：ウェーブスタートを導入する大会において、ウェーブごとにグロスタイムとネットタイムを計測するということについて、順位の決定方法はどのようなものか？

A：実施方法は各大会にてご判断をいただくことになる。

参考までに、神戸マラソンの HP にネットタイムの運用について記載されているので共有をさせていただきます。

http://kobe-marathon.net/2019/runner/competition_info.html

・その他質問等あれば以下のメールアドレスまでご連絡を頂ければと思う。info@jaaf-runlink.jp

・今後もロードレースの主催者様に関わるルール変更部分に関しては、定期的に情報共有をさせていただきます。

5. あいさつ：風間明（日本陸上競技連盟 事務局長）

- ・日本陸上競技連盟では、リモートでの情報交換を頻繁に実施させて頂いている。
- ・対面してお会いしてお話することがベターなのかもしれないが、このような形で頻繁に交流し、こちらからも情報提供ができればと思っている。
- ・今後もこのような機会を増やしていきたいと思っている。引き続きよろしくお願いしたい。